

平成 27 年春、北陸新幹線上越(仮称) 駅開業  
上越市新幹線駅周辺地区まちなみ形成構想

# 百年まちづくり

「百年先も愛される 越後百会のまちづくり」

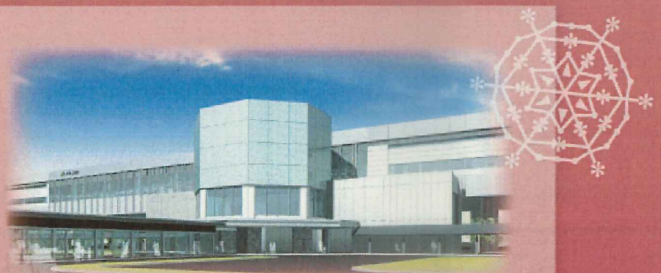


むかえる  
つたえる  
みちびく  
つなげる

「桜と雪の平原」～心地よい軽やかさと繊細さ～(東口)

## 人々の「記憶に残る駅」へ

中央のエントランスから広がる「桜と雪の平原」をイメージした新幹線の駅舎。雪国の人々の暮らしを象徴するように、南北に延びる「駅雁木」と竹林が、訪れる人々を優しくもてなします。

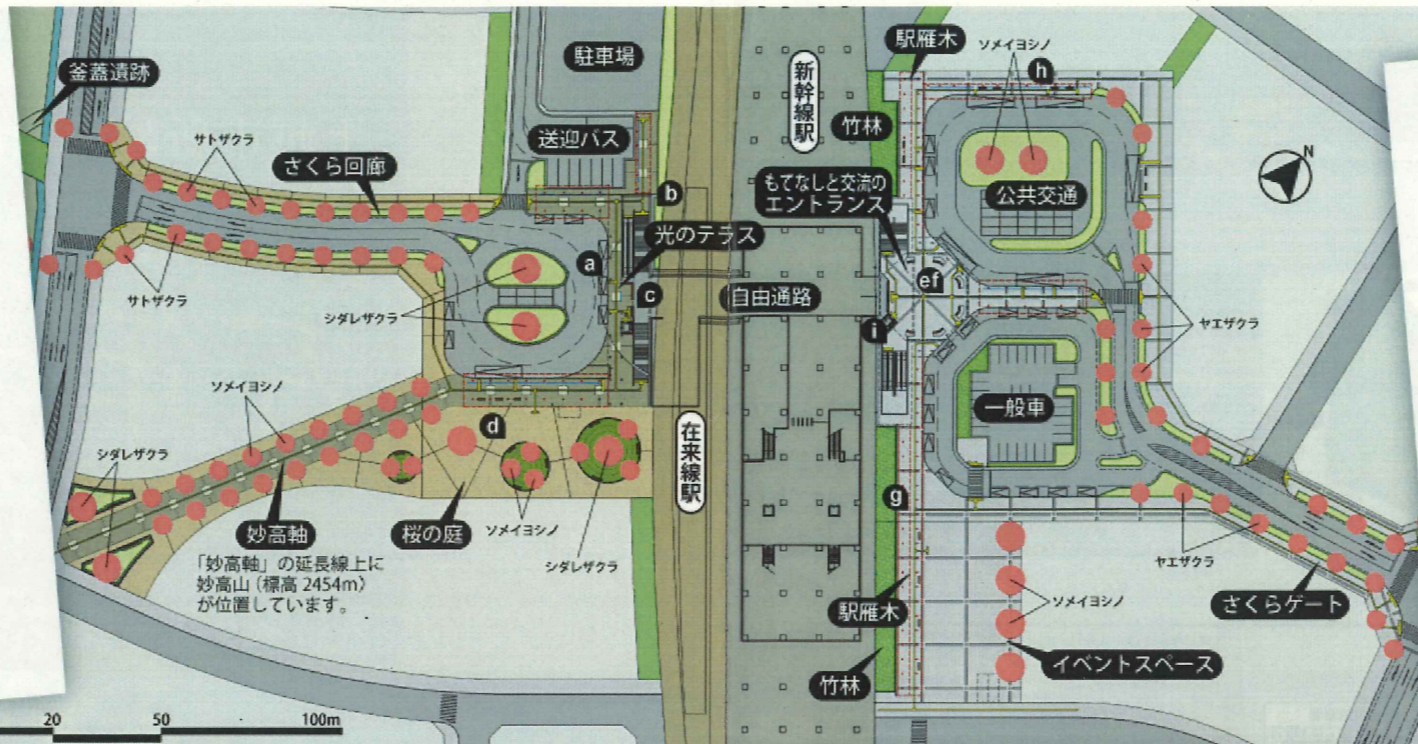




- 送迎バス駐車場を設けた機能的なロータリー
- 大自然を望む、ぬくもりある「光のテラス」
- 妙高山へとつながる「桜の庭」の散策
- 釜蓋遺跡へといざなう「さくら回廊」

## 西側は「大自然との対峙」

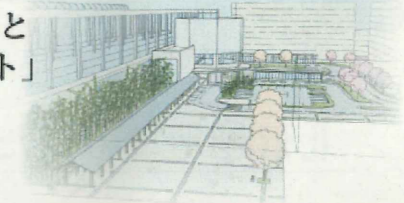
桜の間を人々が行き交い賑わう庭。



## 東側は「都市との対峙」

広域交通の結節点、そして地域の玄関口。

- 一般車と公共交通との混同を避けたロータリー
- 人々が集まる「もてなしと交流のエントランス」
- 雪を眺めながら歩く、日本最大の「駅雁木」空間
- 高田市街地、その先へとつながる「さくらゲート」



西口は妙高連山や田園風景などの大自然が広がり、駅前広場も高田の桜を思わせるような上越らしい空間となっています。春には桜をライトアップイベントも開催します。

昇降施設は柔らかな印象で周囲の桜に溶け込み、2階の光のテラスからは周囲が一望できます。



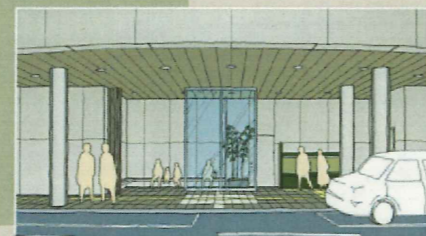
※上のパースは桜の木を線画で表現し、背後の施設を分かりやすくしています。



a 妙高連山を望む光のテラスと昇降施設空間



b 北側階段付近から



c 自然と調和したアースカラーの待合い空間

## 桜の庭、妙高連山を望む光のテラス

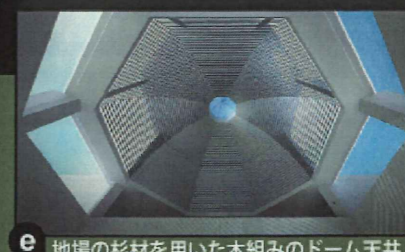
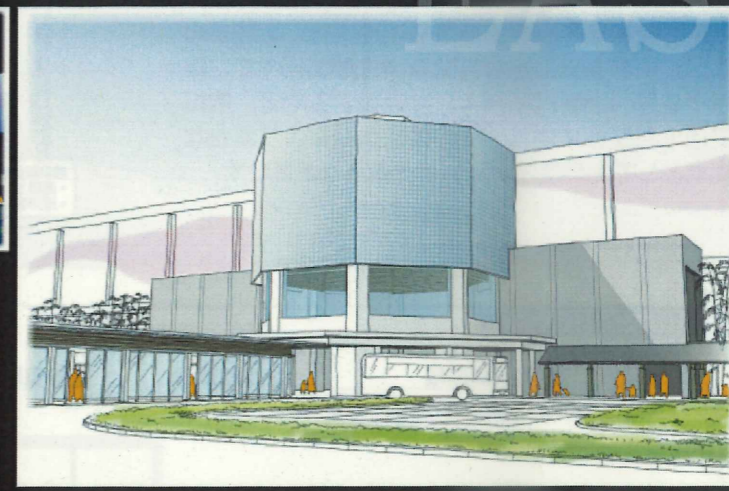
## 駅雁木、もてなしと交流のエントランス



東口は170mを超える日本最大の「駅雁木」を配し、雪国上越の玄関口として相応しい、もてなしと風格ある空間となっています。

エントランスのドームはガラスブロックを用い、昼間は雪の結晶を、夜間は灯籠や行灯を思わせる「記憶に残る駅」を演出します。

天井や雁木、ベンチなどは、地場の杉材や石を積極的に使っています。



e 地場の杉材を用いた木組みのドーム天井



f 賑わいあるエントランス



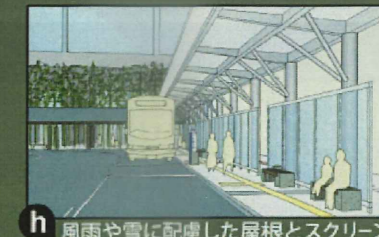
g 木と竹の温かみある駅雁木空間



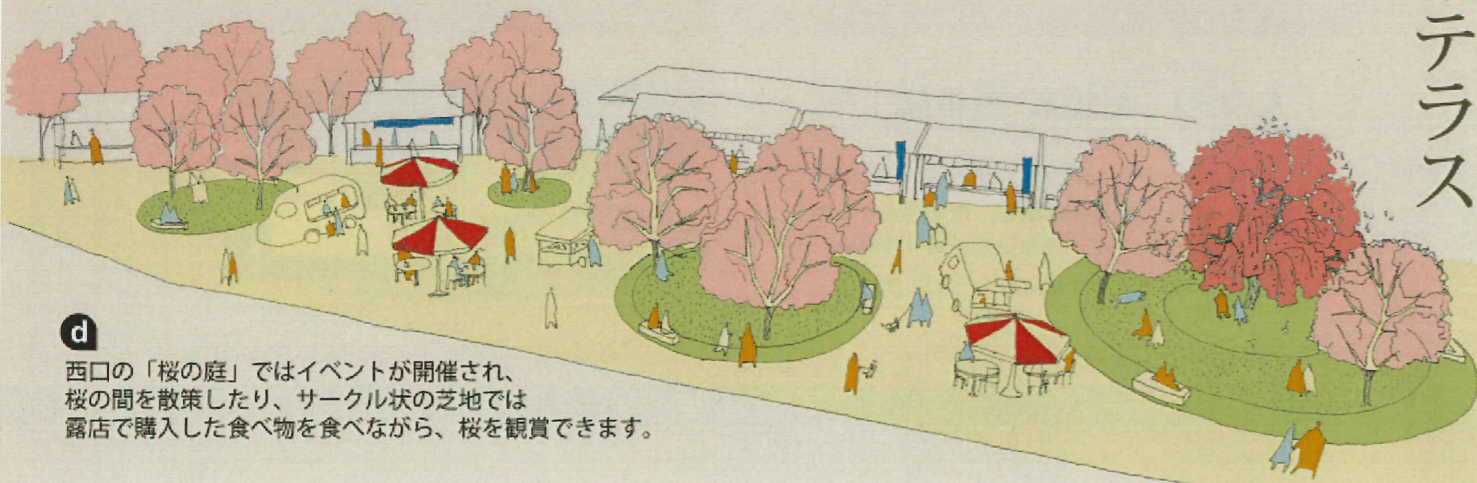
（夜間）  
間接照明による雰囲気のある和空間



i 昇降施設内から「駅雁木」屋根と「竹林」という上越らしい風景を額縁に切り取ります。

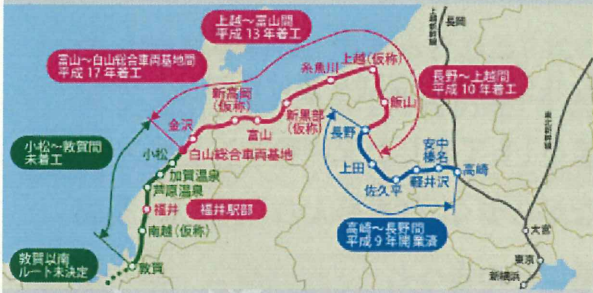


h 風雨や雪に配慮した屋根とスクリーン



d 西口の「桜の庭」ではイベントが開催され、桜の間を散策したり、サークル状の芝地では露店で購入した食べ物を食べながら、桜を觀賞できます。

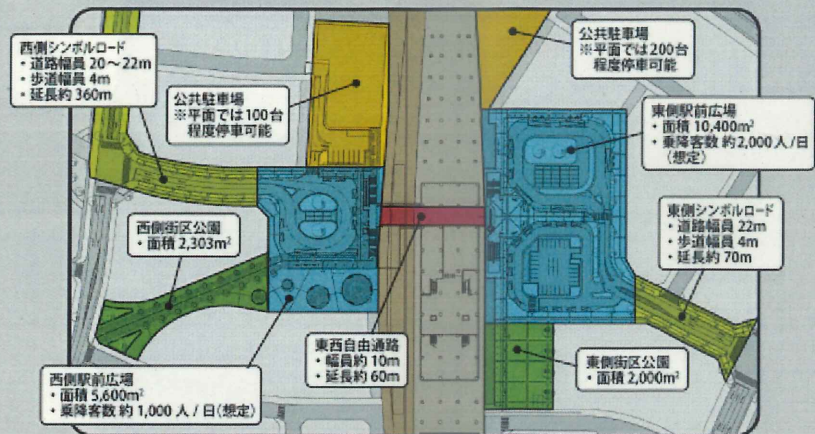




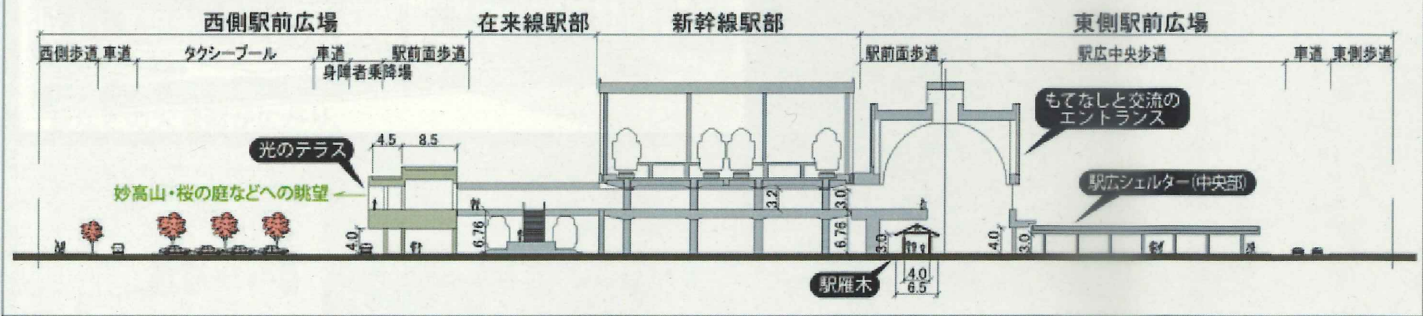
## 北信越地域の新たな玄関口に

平成 27 年春に開業予定の上越（仮称）駅は、主要都市と直結する広域交通の新たな結節点となります。

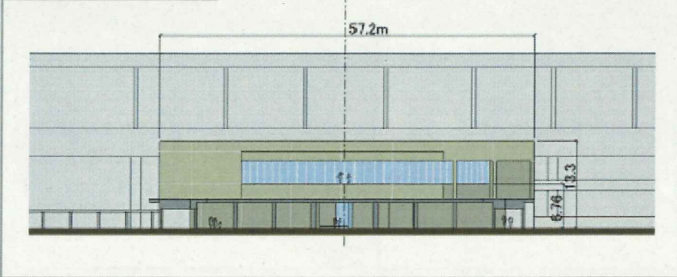
新幹線駅を中心とする駅周辺地区は、上越市の南部に位置し、上信越自動車道上越高田IC、国道18号（上新バイパス）に近接するなど、広域交通の利便性に優れ、新幹線駅開業により新たな拠点として上越圏を牽引する重要な地区です。



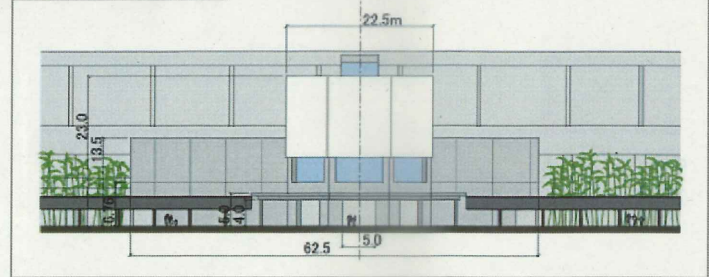
計画断面図 S=1/1,100



西側計画立面図



東側計画立面図



上越市では今後、この構想をもとに駅周辺公共空間のまちなみ形成を進めていきます。 <http://www.city.joetsu.niigata.jp>